

技術系職場・学校における指導方法

—その現状と問題点・解決方法—

Teaching methodology at technical workplaces and schools
—The present situation, problems and solutions—

河野 誠二¹

¹山野美容芸術短期大学

Seiji Kawano¹

¹Yamano College of Aesthetics

530 Yarimizu, Hachioji-shi, Tokyo, Japan 192-0396

キーワード：技術系職場・学校，職業教育の方法，良い指導とは，
教育の成果，技能の伝え方の方法論

Key words : Technical workplace/school, Vocational education method,
On good teaching, Educational achievements, Methodology on how to transfer technical skills

抄録

良い指導は働く教職員の共通の願いである。しかし、ともすると、そのようになっていないのが現実である。また、どうすれば良い指導になるかさえも分からないことがよくある。なによりもこの指導の充実を待ちかねているのは受講生である。

この論文ではどのようにすれば指導が充実できるか、また、良い指導とはどんなことをいうのかについて考えることにしたい。

1. 実践的指導方法

実技指導において特に注意しなければならないことがある。それは、指導者の指導能力の有無が、成果を大きく左右するということである。実技指導では、このことが如実にあらわれる。指導者の専門知識や専門技術は十分であっても、受講生のレベルに合わないなどで、指導の成果が上がらないことはよくある。専門知識や技術において優秀であるということと指導能力とは、全く別のことであるという理解不足からくることである。

1) 技能を修得させる指導

(1) 障害を除去する

まずは、学習者の不安感を取り除くことが必要である。緊張しすぎると簡単なことでも頭には入らない。指導者には、そのための働きかけが状況に応じてできる能力が求められる。

(2) 意欲を喚起する

指導者は、学習者の学習意欲を高める必要があ

る。容易なことではないが、学習意欲がなければ、いくら熱心に指導しても成果は上がらない。

(3) 学習者中心の指導を

学習の原則は、一口にいえば相手の立場に立って考えることである。全体を示し、次に部分へ、それからまとめを述べる、という手順は、学習者の理解を容易にするためである。

(4) 実際の、実践的指導を

指導においては、抽象論を羅列するよりも、実際の例を示すことにより、学習者の理解を促すことができる。

(5) 五感を活用する

聴覚ばかりでなく、視覚にも訴え、ときには触覚にも訴える、というように五感を併用すると、学習者は学習しやすくなる。

(6) 成功感を常に保持させる

学習者に「私でもできる」という意識をもたせることは「私にはできない」という意識をもたせることより、数倍学習の効果がある。これは教育において重要なことである。

(7) 反復継続する

実技指導では何といっても繰り返し練習させることが重要である。指導者は忍耐強く、成果が上がるまで反復練習を続けることである。

2) 仕事の教え方のステップ

(1) 段取り (指導の準備)

指導の手順を誤る、表現が不統一になる、重要な点が欠落することがないように、事前に指導内容の作業分担をしておく。また、材料、部品、道具類は所定の位置に置いておき、すぐに仕事にかかれるようにしておく。

(2) 第1段階 (学習の準備をさせる)

学習者の緊張感を和らげる。学習の目的を明確に伝え、使用する機械や道具、部品等も実際に見せて名称を説明する。学習者の知識や、経験の有無によって教え方は違ってくる。

(3) 第2段階 (作業を説明する)

まずは、一通り作業をやって見せる。次に、作業分解表を見ながら、主な手順だけをやって見せる。そして、重要な点のみをやって見せる。この時、難しい作業については、悪い例を見せたり、実際に触れさせたりするなどし、強く印象に残るようにする。最後は、急所がなぜ急所になるのかを説明しながらやって見せる。学習者の理解を促すように、手順を区切り、ゆっくりと行う。

(4) 第3段階 (やらせてみる)

頭で理解することと身体で理解することとは別のことである。十分であると指導者が確認できるまで実習させることである。

(5) 第4段階 (教えた後をみる)

一通りできるようになったら、すぐその仕事を担当させる。指導者はこまめに確認すること、また実際に仕事をするうちに生じた疑問点については、些細なことでも指導者等に質問するようにはあらかじめ言うておく必要がある。徐々に指導回数を減らしていき、最終的には、1人で十分にでき

るという自信を持てるようにしてやる。

2. インストラクターの心構え

(1) 教える技術

1. 講習の主題を熟知せよ
2. 意思伝達をはかれ
3. 講師として適切な態度をとれ
4. 他のインストラクターを観察し、研究せよ
5. 他のインストラクターに評価してもらうか、教習を自分で録音し研究せよ
6. 自分の弱点を克服せよ
7. 受講者と講師の適切な関係をはかれ
8. 適切なスピードで、自信を持って明瞭かつ大きな声で説明せよ

(2) してはならない3点

1. 主題に対して偽り情報を伝えない
2. 他のインストラクターを嘲笑しない
3. 自身や受講者に対して忍耐を忘れない

(3) 積極的な態度や姿勢をとれ

1. 姿勢を正す
2. だらしないマナーやしぐさはしない
3. 表現に身体の動作も入れる
4. 小さな声で話さない
5. 担当する科目に熱意を持つ
6. 声の質を考える
7. 教える能力を追及する
8. 担当科目の主題の知識
9. 決して謝らない・・・例えば「すみません、私は今日何の教習の準備もしていません」

(4) 受講者への質問の仕方

1. 質問をしてから、名指しして答えさせる
2. 受講者の半数まで質問を行い、最後にメインとなるポイントを強調する
3. その効果をテストする
4. 受講者に全ての質問を理解させる

(5) 教える手順

1. 講義～序編
2. 実演～内容
3. 説明～要約
4. 実践～応用

3. カリキュラムの機能

ーガイドノートの重要性

(1) ガイドノートの定義

ガイドノートとは、講義毎の内容が行程順に細かく記載され、他のインストラクターが見てもそれによって講習を行う事の出来るノートである。

インストラクターは、効果的な講習の為に、何をどう教えて行くか確実に把握する事が出来る。

(2) ガイドノートの利点とは

1. 講習の目的を確認する事ができる
2. 複数回にわたる講習の連続性を保つ事ができる
3. 主題説明の方法選択を確認する事ができる
4. 講習手順に計画性を持たせることができる
5. 講習の要約を速やかに与える事ができる
6. 講習の成果に、効果的な評価を与える事ができる
7. 質問のポイントを与える事ができる
8. 講習の展開に統一性を持たせる事ができる
9. 確実な受講生の評価を保障できる
10. 各受講生に柔軟に対応する事ができる
11. 題材の有効性を与える
12. インストラクターが自信を持つ事ができる

(3) ガイドノートの基本項目 11 条

1. 特定された主題
2. インストラクターの準備品
3. 受講生の予習
4. 講義ポイント
5. 無難な先行きの見通し
6. 実演のポイントと行程
7. 特別な問題
8. 口頭質問内容
9. 応用
10. 要約
11. 評価

4. 講習の要素とアウトライン

ガイドノートの形式や内容は、状況や環境によって変わってくる。こうでなくてはならないという訳はないが、おさえておくと便利なガイドノートの要素を上げておく。

1. 目的 (主題). ガイドノートは、目的や講習の目標をふまえた簡潔な形式にする。

2. 時間配分 (一つのテーマで約 120 分が適当である)。
3. 映像機具や道具. それぞれ教習に応じて準備する (インストラクターと受講者との間の必要性において)。
4. 参考書類. 可能ならば講習に適したテキスト・写真などが説明の捕捉になる。
5. 実演. 方法や手段は全て準備する。実演の順番を示す。
6. 重要な部分については質問をある程度用意しておく。
7. 要約. 重要な部分に入り込む要約を作る。
8. 査定, 評価. 理想的な講習は最終的にクリアで包括的, 有意義なものになる。それは受講生にとっては面白い講習となる。

5. 良い指導の展開

計画性のない講習は、例えばコンパスを持たないで海を渡るようなものである。ガイドノートの作成はインストラクターが教える場所における全ての行動を考える事から始まる。インストラクターの目的は講習に方向をつける事と、学校もしくは訓練場によって網羅された主題を成し遂げるための一クラスの学ぶ行為を引っ張っていく事である。これはインストラクターが長期計画を設け、豊富な知識を提供できるよう継続的に学んだ経験を生かす事が出来るときにだけ達成される。

美容技術訓練の継続は、受講生が新しい領域に達するよう長期計画が実行された時、初めて実現するが、それは過去に学んだ経験に深く関係する。連続したガイドノートの関係、教習に許される時間、また求められた教習の目的は美容訓練プログラムの主な主題と並行して作られまたは導かれなければならない。

美容教育プログラムを進行させて行くにあたって、インストラクターは毎回の目的、内容、技術、使う道具、そして成される事を必ず計画していなければならない。

講義の進め方の基本

(1) 導入段階

1. 受講者に興味と関心を起こさせる。
2. 気持のうえでも、講義に入っていけるようにウォーミングアップをする。(自己紹介・問題提起・質問シート・事前アンケートなどで)。

3. 起・このような問題が起こっている。
4. 承・これを解決すれば、このようなメリットがある。

(2) 展開段階

1. 論旨を板書したことを積極的な姿勢で説明する。
2. あれこれと話せず1つのことを中心にする。
3. 基本・理論の解説、内容に権威を持たせる。
4. 自分の問題として考えるように仕向ける。

(3) 終結段階

1. 学んだことをいかに行動に移すか、どのようにしてこの知識を生かせるか。
2. 理解したことや気づいたことをまとめさせる。
3. 次への課題を提示して、これからの学習意欲を喚起させることが大切である。

6. 良い指導のために何をすべきか

理想的な技術指導の要素については、1つのテーマに絞り、受講生の過去の経験に関係させながら一度に複数の内容を教えないことである。高い美容技術のレベルを確認しながら、計算可能な達成度を求め、受講生達に何か新しい道具やアイデ

アを取り入れさせる事が重要となる。しかし、やればできるのに「やらない」という問題がある。技術的能力の面では、あまりやりたくない仕事でも自分の努力で技術を修得して、しかも職務ということになれば自分自身のモチベーションも上って来るようになる。態度の「態」には「心」に能力の「能」が乗っているように、心が形に表れる「様」で目に見える動作でなく、その人の心のもち方ともいうべき心の様子のことである。

指導者は、じっくり忍耐強く継続して対応する必要があり、態度や行動を課題とする学習は継続的に行なわれることが必要となる。職業教育については、より健全で効果的な考え方を検討して選択し、仲間(スタッフ)と協力して仕事を達成し、新しい考え方を生かす努力をすることによって技術を習得することができ、対人的能力を高め、社会的能力を高めて行くことが可能になる。

謝辞

本研究は、美容における技能教育プログラムの開発にあたって、懇切なご指導を賜った森和夫氏の諸説によるところが大であります。

ここに学恩に深く感謝申し上げます。

Abstract

Good instruction is the shared hope of both faculty and staff. In reality, however, it is not always the case. Just what to do to facilitate good instruction is often not clear. Most importantly, students wait in anticipation for good instruction.

In this paper, I will discuss how good instruction can be provided and also what good guidance is said to be.

(受付日: 2017年2月7日, 受理日: 2017年2月15日)

河野 誠二 (かわの せいじ)

現職: 山野美容芸術短期大学 客員教授

美容教育に期待される能力は、実践的な技術指導経験を如何に積むかによって左右される。学生の習熟度を的確に判断する評価制度設定し、常に科学的な根拠に基づいて柔軟な姿勢で教育指導する事を心掛け実践している。